宛先

ニューズレター

低平地研究会（LORA），国際低平地研究協会（IALT）　No.82
http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html
http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html
平成27(2015)年 9月29日

低平地沿岸海域研究センター
ベトナムでの海外サテライト開設

低平地沿岸海域研究センターでは、本研究会による地域との連携と同時に、国際低平地研究協会（IALT）を通した国際的な活動も 20 年来**にわたり**活発に行っています。近年、国際研究ネットワークの重要性が見直され、センターでの取り組みに注目が集まりつつあります。

このような状況のなかで、当センターは国際研究・教育における協働活動の強化の一つとして、従来から密接な交流がある海外大学においてサテライト開設を行っており、2012 年にはインドネシア・ハサヌディン大学、2013 年にはタイ・カセサート大学でサテライトがそれぞれ開設され**てき**ました。9 月 16 日の調印式をもって、3 大学目となるサテライトがベトナム・チュイロイ（Thuyloi）大学（旧水資源大学）に開設されました。調印式における意見交換では、両校の研究および教育における国際交流に関して議論が交わされました。

調印式の様子

記念品の交換

2016年度にはインドで4箇所**め**となるサテライトの開設が予定されており、国際、**さらに**地域ネットワークを活用した研究と教育システムづくりが進みます。ひいては、これらの成果によって質の高い学生を輩出し、社会へ還元できることを期待しています。

都市空間専門部会
環アジア国際セミナーの共催

7 月 29 日～8 月 4 日にかけて、佐賀大学および肥前浜宿において、環アジア国際セミナーを行いました。韓国交通大学校、タマサート大学、チェンマイ大学、佐賀大学から合計 63 名（タイ 30 名、韓国 9 名、中国 2 名、ミヤンマー1 名）が参加しました。グローバル社会における文化多様性と歴史的環境の保全活用というテーマ**のもと**、肥前浜宿の地元住民や鹿島市の多大なる協力を得て、茅葺町家などに民泊して実施されました。学生による「肥前浜宿の入口」に対するデザイン提案は、学生たちが短い期間内に対象地区の調査を行い、英語に身振り手振りやスケッチ・模型等を交えながらコミュニケーションしてつくりあげたもので、実現させたいアイディアも多く、地元住民からも**たいへん**好評でした。来年度以降も継続して行ってもらいたいという声が上がるほど盛り上がった4泊5日でした。

低平地研究 No.24 の発行

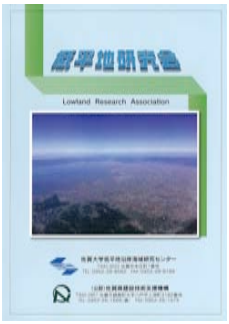
低平地研究 No.24 が 8 月に発行されました。今号ではエミル・サミル教授（インドネシア共和国　元環境大臣）の巻頭言に始まり、「低平地の生態系」と題して４編の特集記事が掲載されています。その他に、論文・報告、解説・資料・速報などの記事も掲載されています。

低平地研究に関する豆知識 -その１９-
化学物質に着目した環境対策

広大な泥干潟を擁する有明海沿岸域は多様な生物の生息の場となっています。陸域から流入する汚濁物はこのような干潟の生態系に大きな影響を与えます。したがって、干潟に続く低平地の水環境の保全が重要となります。

近年医薬品や化粧品などに含まれる化学物質（Pharmaceutical and Personal Care Products; PPCPs）が水域から検出されています。現在流通している物質は2000 種以上といわれていますが、難分解性であることから、下水処理場で処理されず河川へ放出され、主に土粒子に吸着して底泥に蓄積します。これらは極めて微量であることから、実際に何に対してどのような影響を及ぼすのか環境毒性評価が明確にされたものはごくわずかです。しかし、沿岸域の底泥の生態系に長期にわたって影響を及ぼす可能性があります。今後、低平地の水質管理には有機物、窒素、リンといった富栄養化にかかわる物質とともに、化学物質にも注目して干潟の生態系保全や水産資源の確保に取り組む必要があります。（佐賀大学　低平地沿岸海域研究センター　客員研究員　大石京子）

新しいパンフレットの配布



前号のニューズレターでも触れましたが、本研究会の部会が従来の７部会から５部会へ再編され、本年度から新体制による活動が始まりました。

そこで、部会再編に際して活動紹介などを刷新したパンフレットを作成しました。

研究会活動へのご参加をお待ちしております。

低平地研究会活動内容・日程の案内

◆ 環境専門部会　講演会 ◆

講　師：Winai L（タイ・カセサート大学）
内　容：世界の低平地
　　～タイ・バンコクにおける洪水対策～
日　時：平成２７年１０月２１日（水）
場　所：未定

詳細が決まり次第、会員の皆様へご案内します。

会員動向

特別会員

西日本総合コンサルタント株式会社

弊社は 1971 年の創業から 44 年の歴史を重ね、一貫して社会資本整備のための測量･設計、地盤調査、補償、情報処理等の業務を行っています。近年、トンネルのコンクリート崩落事故や橋梁､構造物の経年劣化等の問題が多発しています。弊社では、iTECS 技術協会員として「コンクリート構造物健全度診断業務」を営業種目に加え、既設コンクリート構造物の健全度診断調査の実施、補修・補強対策の提案、新設構造物の微破壊・非破壊による強度測定、配筋かぶり測定等の業務を取り扱っています。

今後も、自然と調和のとれた安全な地域社会づくりを目指し、質の高いサービスを提供していきます。

LTI ジャーナル Vol.17、No.2 の発行

英文機関紙「Lowland Technology International」の Vol. 17､No.2 が発行され､8 編の論文が掲載されました。

Title	Authors
Evaluation of settlement behavior of the improved ground by using floating type columns during consolidation	*Z.B. Jiang , R. Ishikura and N. Yasufuku*
Effects of sugarcane bagasse ash (SCBA) on the strength and compressibility of cement stabilized peat	*M.K. Abu Talib, N. Yasufuku and R. Ishikura*
Performance of geosynthetic reinforcement on the ballasted railway track	*L.S. Sowmiya, J.T. Shahu and K.K. Gupta*
Applying numerical method to understand the effect of climate change on the salinity intrusion in Ca River Basin, Vietnam	*Q.T. Doan, N.C. Don, Y.C. Chen and P.K. Mishra*
Identification of flood-prone areas by integrated remote sensing model	*A.A. Mustaffa, A.W. Rasib, M.I. Rosli, M.R.M. Adib, M.S. Adnan and L.W. Tan*
Strategies for energy efficiency renovation and evaluation system of existing residential building in hot summer and cold winter zone	*M.Y. Lu, J. Ge, T.T. Shen and X.Y. Luo*
Spatial characteristics of Bantik ethnic community in Indonesia	*P.P. Egam, N. Mishima, R. Goto, and Y. Taguchi*
Construction of an evaluation structure model for childcare in authorized nursery schools: A case study on Saga City in Japan	*M. Kinashi, Y. X. Tan and T. Tribe*

編集後記

今号の発行が遅くなり、大変申し訳ございませんでした。今後ともよろしくお願い致します。

編集：三島（佐大:sk9822@cc.saga-u.ac.jp）江頭､日野